

様式③

提出日 29年1月5日

2017年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ

課題をかかえる生徒の自律に向かう意欲の向上を目指して
～小動物との関わりや体験活動から広がる教育活動の展開～

氏名：松田夕貴

所属学部学科：人文学部 福祉文化学科

I. はじめに

これまでの研究において、中学校で小動物を飼育する効果や、小動物を題材にした新たな教育プログラムの開発について取り組んできた。

今回の研究では、小動物との関わりや体験活動を通して遊び・非行、怠学傾向、情緒的・心理的不安定傾向のある生徒の自律に向けた支援について調査していく。

また、野菜・花づくりや、お菓子づくりなどの体験活動を通して、生徒自身が、どのようなことを学び、それをどのように感じたのかについて調査していく。

II. 研究の目的、動機

昨年、小動物を飼育することの効果について那覇市のI中学校を対象として調査し、美術や道徳などの教育プログラムの試案を作成し試みた。

その調査研究では小動物を飼育することにより、不登校の生徒が生き生きと学校生活を送り、不登校率の改善につながったという結果がみられた。

今回の調査研究では、浦添市のN中学校の生徒を対象にして、教職員、生徒サポーターが地域の協力を得て取り組んでいる状況について調査する。具体的には、小動物との関わりや体験活動を通して自己有用感、自尊感情を育むための実践状況について調査する。

III. 研究方法、地域、期間

N中学校における調査方法として、教職員の取り組みの状況を把握するためにインタビュー調査を行い、生徒の変容を見るためにアンケート調査を行う。

【研究方法】実施調査（仲西中学校）、アンケート調査（仲西中学校）聞き取り調査（仲西中学校）

【調査対象地域】浦添地区

【調査・研究期間】6月～8月 調査内容検討

9月～11月 調査開始

9月初旬 研究依頼のための学校長への事前説明→依頼公文の発送→
教頭等への研究内容、研究計画等の説明と意見収集

- ・先生方、生徒、生徒支援サポーター、教育相談員にインタビュー、アンケート調査実施
- ・校内活動や対外活動に参加

IV. 結果

(1) 先生方へのインタビューのまとめ

①なぜ小動物の飼育や、野菜・花作りをしているのですか？

- ・子どもたちの居場所づくりや体験活動を地域と連携して行うことによって、生徒指導の充実をはかる。
- ・体験活動など、授業参加させることによって出席率が高くなる。
- ・別室にいる子どもたちは、体験活動などに取り組むことによって目的をもって登校する。
- ・体験活動などを通して、子どもの心が学校に向いてくれることを期待している。また、体験活動などを通して自分にできることを自分で見つけられるようにしていく。



写真1 うさぎの飼育



写真2 鳥小屋の引っ越し



写真3 夢フェスでの販売体験

②どんな学校にしたいですか？

- ・生徒や先生、地域の人それぞれに役割があって活躍できる学校。
- ・子どもたちが目標を達成することで自信や、やる気につながる学校。

③保護者や地域は学校づくりに、どう関わっていますか？

- ・あいさつ運動や職場体験、読み聞かせ、校内の美化作業、夢実現フェスタなどに先生方、保護者、地域が一緒になって取り組んでいる。

④別室にいる生徒にどのような活動をさせていますか？

- ・相談室に通う生徒は小動物の飼育、野菜・花づくり、お菓子づくりなどの体験活動を通じた仲間づくり。
- ・特別支援教室に通う生徒は勉強だけではなく、生活単元学習、作業学習を通して自律につながるような支援をしている。



写真4 畑作業



写真5 野菜の植え付け

⑤地域での職場体験はどのように取り組んでいますか？

- ・生徒指導主事や生徒サポーターがどんな職場に興味があるか生徒に聞き取りを行い、地域の人からの紹介で、体験活動を準備している。

⑥学校で別室の生徒を見かけたとき、どんな声かけをしていますか？

- ・学校は楽しいか、困っていることはないか、どんな勉強をしているか声かけしている。
- ・自分のやっていることを、自分の言葉で説明できるように話し方を指導している。



写真6 焼き物づくり

⑦情緒的・心理的不安定、不登校、以外で学校になかなか登校できない生徒に、どのような取組をしていますか？

- ・職場体験の準備や、教育委員会関係機関と連携して、適応指導教室などにつなげている。また、スクールカウンセラーや職員、相談員が家庭訪問を行っている。
- ・通信制の高校と連携して、高校の授業体験をさせている。



写真7 ちんすこうづくり

⑧別室にいる生徒の授業の課題、学習時間の確保はどのようにしていますか？

- ・学習時間の確保は教育相談担当が決め、学習時間と体験活動のバランスをとる。学習の課題は各教科の先生が与え、評価している。

仲西中学校支援活動時間割 ※美雪・善美代 フリーで入ります

	月	火	水	木	金
座談クラス	座談 互助 (学習)	座談 座談(作業)	座談 沖大生(支援)	座談 佐吉(学習)	座談
歴史クラス	神本	紀史	紀史 沖大生	佐吉 神本	紀史
座談クラス	互助 (学習)	中本(相談) 座談(作業)	中本(相談) 座談(作業) 沖大生(支援)	佐吉(学習) 神本(作業) 安室(支援)	中本 清成(学習) 山田 美雪 善美代 神本
歴史クラス	神本	神本	神本 沖大生	美雪 善美代 神本	
座談クラス	互助 (学習)	中本(相談) 座談(学習)	中本(相談) 座談(学習) 沖大生(支援)	佐吉(学習) 神本(作業) 安室(支援)	中本 清成(学習) 山田
歴史クラス	神本	神本	神本 沖大生	美雪 善美代 神本	
座談クラス	座談 互助 (学習)	座談 互助 (学習)	沖大生 座談(各名)	佐吉(学習) 安室(相談)	山田 座談 (各自に即応して)
歴史クラス	授業(各自に即応して)				
座談クラス	教室				
歴史クラス	教室				
座談クラス	互助 (学習)	神本 (各自に即応して)	体験活動等 (調理実習) 座談 中本 神本 善美代 美雪 善美代 紀史 座談	佐吉(学習) 神本	総合 (各手録)
座談クラス	座談 互助 (学習)	座談 中本 座談		座談 佐吉(学習)	総合 (各手録)
歴史クラス	紀史	紀史		神本 紀史	

図1 相談室に通う生徒用の時間割

平成29年 9月 1日 (金曜日) 天気(晴れ)

起床時間	(5時 00分)	食後時間	(8時 10分)		
就寝時間	(11時 00分)	下校時間	(10時 45分)		
1. 今日の調子は(元気) 100 (90) 90 40 20 不機					
2. 朝食は(完食) ちよこっと(パン) 朝食向 おにぎり 無し					
3. 洋服は(準備) ぐつぐつ 履きたりない 履き直(グラム) Tシャツ履き直					
校時	教科	学習	授業計画	内容・範囲	学校での様子
1	数	三	二	0.1~1.0	1. 準備して勉強した方法は?
2	国	○			「メリハリをつけた」
3	社			歴史ワーク 0.1~0.5	2. 今日の自分
4	英	○			「少し眠い」
給食		(学校・相談室)		献立は：野菜ラーメン	
5	理			学習指導 0.1~0.7	3. 明日の目標を書こう
6	道徳	○			「登校時間を早くする」
※学級のマスは行(授業)に○					
今日の反省					
学習時に少しおしゃべりをして集中できなかった。					
教育相談室より					
担任より					

図2 今日学習したことを記入する学習記録簿

⑨マイナスな発言があったとき、どんな声かけをしていますか？

- ・なぜマイナス発言をするのか、マイナスな発言が意味があるのかを聞く。また、発言するという事は、素直な気持ちだから発言したことを評価し、その発言について話し合う。

⑩生徒サポーター、教育相談員に他にやってほしいことはありますか？

- ・去年は教育相談員は相談室にしかいなかったが、今年は家庭訪問や相談等で関わってもらい、助かっている。

⑪授業中眠っている生徒へどんな声かけをしていますか？

- ・個人の課題や体験活動をしているため、ほとんど眠っている生徒はいない。

(2) 生徒サポーター、教育相談・支援員へのインタビューのまとめ

①どんな活動をしていますか？

- ・子どもたちの登校支援や話し相手、保護者の方の悩みを聞く。(生徒サポーター)
- ・相談室の子どもの対応。(教育相談員)

②週にどのくらい学校に来ていますか？

- ・週に3日(個人的には毎日、3日以外はボランティア) (生徒サポーター、教育相談員)

③生徒と関わる中で、難しいと思ったことは何ですか？また誰に相談しますか？

- ・今の生徒は小学校から知っていて、関係性ができているので難しいことはない。
- ・相談は、同じ職種や管理職、教育相談担当に相談する。(生徒サポーター、教育相談員)

④生徒たちとの関わりで、やりがいが思ったことは何ですか？

・高校も厳しいと言われた生徒が、高校に進学して頑張っているということを聞けるのが嬉しい。〈生徒サポーター〉

・明るくなった表情が見られるようになることや、思っていることを少しずつ話してくれるようになったときなど、成長したなど感じる 때가嬉しい。〈教育相談員〉

⑤初めて会う生徒とのラポートのとり方はどのようにしていますか？

・自分から積極的に話しかけ、自己紹介をしたり「何かあったらいつでも言ってね」と声かけをしている。〈生徒サポーター、教育相談員〉

⑥生徒と話をするとき、どんなことを意識して話していますか？（気をつけていることはありますか）

・子どもの目の前で親や担任の愚痴を言わないように心がけ、良いところを取り上げて話している。

・自分の考えを押しつけないで、選択肢を示す。
〈生徒サポーター〉

・嘘をつかないこと何でも本音で話すように心がけている。なるべく笑うようにしている。

・守秘義務があることを伝える。（伝えることで、言えなかったことを言ってくれることがある）

〈教育相談員〉

⑦学校に、もっとこんな取組をしてほしいと思うことはありますか？

・担任の先生から私たちに声をかけてほしい。

（子どもの実態をお互いがもっと把握できるようにしたい）〈生徒サポーター〉

・家庭訪問をしてほしい。（家の中を見て感じることもあるし、生徒の生活が分かる）

・保護者との関わりをつくってほしい（三者面談も来ない人がいる）〈教育相談員〉



写真8 遊び非行傾向の生徒が鳥小屋制作しているところ



写真9 (夏休み自由研究)
「ペクチンの謎に迫る」



写真10 実際に使った材料のジャム

V. 考察、分析

(1) 小動物との関わりや体験活動における成果と課題

小動物との関わりや体験活動における成果と課題をまとめると表1のようになる。

	活動	成果	課題
先生	・小動物の飼育 ・野菜・花づくり ・夢実現フェスタでの販売体験 ・体験活動（サツマイモプリンづくり、ちんすこうづくり、いもけんぴづくり、焼き物づくり）等	①時差登校ではあるが、生徒が学校に来るようになった。 ②役割を与えることができるため、生徒の登校意識が高まった。 ③生徒自身が自分の変容に気づくことができた。 ④多くの地域の協力者を得て、体験活動が実施できた。 生徒サポーターは小学校から引き続き生徒と関わっているため信頼関係が、より深まっている。	①生徒の登校する時間が遅いため、活動が3、4校時からしか始められないため活動の充実に課題が残る。 ②学習記録簿に記入できない。 ③体験活動に時間が割かれ、基礎学力の向上が課題である。 ④教職員や地域の方たちとの情報共有が必要である。
生徒		①笑顔が増えた。 ②人に話かけられるように頑張った。 ③夢実現フェスタの販売体験活動が自信につながった。	①周りの友達や大人の人たちに目を向けて、行動できるようにする。 ②生活リズムが不規則な生徒がいるため、まとまった活動ができない。 ③一日の活動記録を記入できない。

表1 体験活動による成果と課題

(2) アンケートに見られる生徒の感想

生徒アンケートの記述には、以下のような感想があげられた。

(表2、写真11)

<ul style="list-style-type: none"> ○「友達とつくったものが（70周年記念、夢実現フェスタ）で売れてうれしかった」 ○「販売のときに人に話しかけられたので、頑張った」 ○「友達と協力して、焼き物やお菓子づくりができ、美味しくできる方法などを考えてつくることができたので、とても楽しかった」という意見もあった。
--

表2 生徒の感想の記述

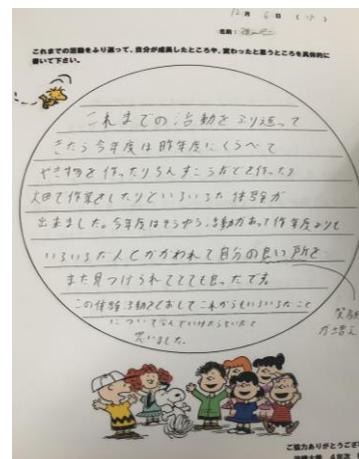


写真11 実際のアンケート用紙

先生方やサポーターの方たちは、生徒が目的を持って登校できるよう小動物との関わりや体験活動など様々なことを考え、取り組んでいる。生徒自身に自己決定させ、目標を達成させたり、自分の行動を自分の言葉で説明できるようにさせたりすることで、生徒一人ひとりの自信につながるよう取り組んでいることがうかがえる。

また、生徒の感想からは、「うれしかった」「頑張った」「楽しかった」などのプラスの言葉が多く見られた。

この結果から小動物との関わりや体験活動は生徒にとって自尊感情につながっていることがうかがえる。

(3) 体験活動によってもたらされる登校状況の変化

体験活動を取り入れる前と後の、生徒の登校状況をグラフにすると図3のようになる。

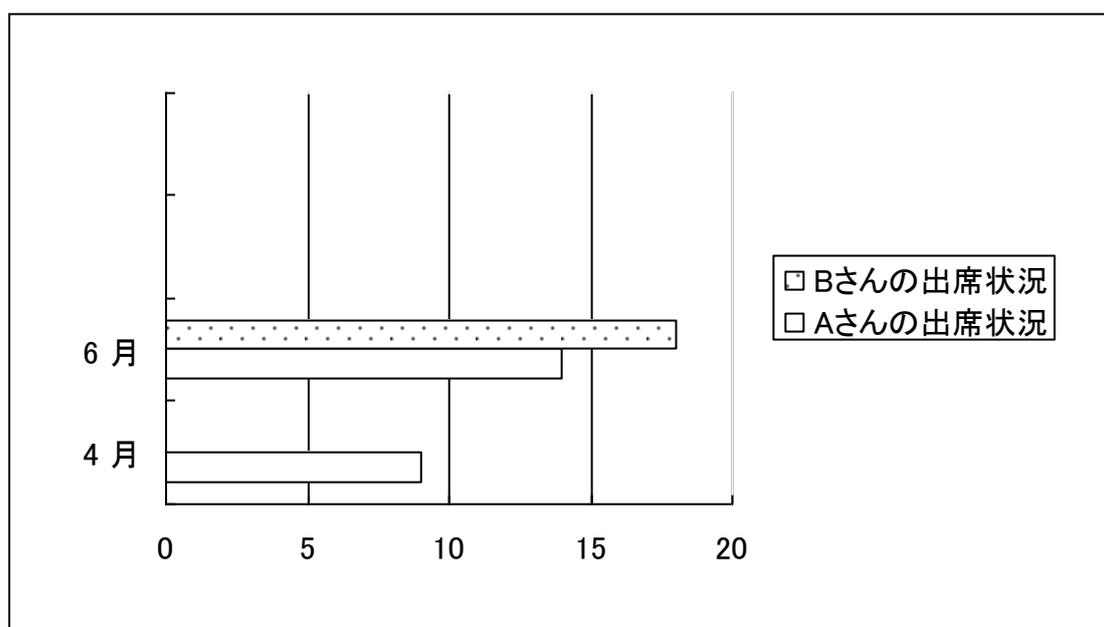


図3 小動物との関わりや体験活動を取り入れてからの生徒の出席状況

図3は小動物の飼育や体験活動を取り入れてからの生徒の出席状況であるが、小動物との関わりや体験活動を取り入れていない4月はAさん9日、Bさん0日登校。6月から小動物との関わりや体験活動を取り入れ、Aさん14日、Bさん18日登校という結果になった。小動物の飼育や体験活動を取り入れてからは、生徒の出席状況がとても良くなったことが分かった。うさぎの世話に関しては、土日も生徒が登校して世話をしている。

また、この活動を支えているのが先生方やサポーターの支援であり、その上で成り立っているということが今回の研究で明らかになった。

以上のことから、小動物との関わりや体験活動を通して、生徒たちの意欲の向上につながっていると考えられる。

(4) 本研究全体からの考察

子どもの居場所づくりで小動物の飼育や、体験活動をはじめ、自分の役割を与えることや、友達と協力することで時差登校ではあるが、学校に来るようになった。先生方やサポーターの方たちが生徒をサポートすることで、生徒の意欲向上や成長につながり、生徒自身も自分の変容に気づくことができた。

野菜や植物を育てること小動物の飼育は継続的に行われる体験であることから、根気強さが増し、お菓子づくりや焼き物、販売では人との関わりやコミュニケーション能力を身につけることができ、生徒の成長につながるということが分かった。ここで、小動物との関わりや、体験活動と生徒の意欲には図4に示すような関係があると考えられる。

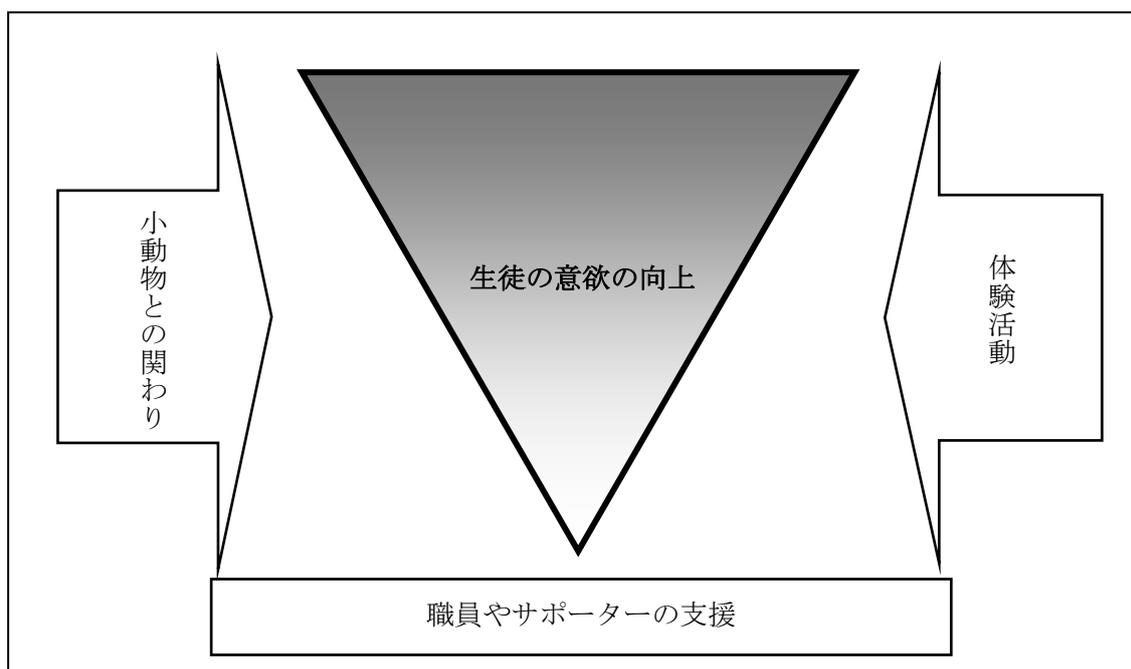


図4 小動物との関わりや体験活動と生徒の意欲との関係図

VI. 今後の展望

体験活動を取り入れることで、生徒達は時差登校ではあるが、学校に登校することが分かったため、次のステップアップとして、どのような工夫をしたら教室にもどることができ、学習に取り組んでいけるのかということを今後の調査研究等で学んでいきたい。

VII. おわりに

今回の研究では、小動物の飼育や、野菜・花づくり、体験活動を通して生徒自身が自分の変化に気づくことができ、一緒に活動していく中で、生徒一人ひとりの成長を感じることができた。自己有用感や自尊感情を図ることは容易ではない。しかし、生徒の感想の中にあるプラスの言葉が増え、笑顔が増えているという事実や、関わる先生方、サポーター

の方々の、生徒の成長を信じて取り組んでいる姿から、このような活動は中学校において、とても大切であると考えます。先生方やサポーターの方々も生徒の成長や、一日でも早い教室復帰に向け、体験活動を含め、多くのことを考え実践していることが、この調査から分かった。

VIII. 参考文献、調査協力

仲西中学校

IX. 指導教員コメント

本調査研究報告書は、沖縄大学地域研究所の「琉球孤研究支援事業」を受けて3年間にわたって取り組んだ研究の3年目の取り組みの結果である。

1年目は、新聞に記載されたI中学校の教育活動に関心を示し、小動物を中学校で飼育する意味やその成果等についてグループで取り組んだ。2年目は「いのち」「食育」などのテーマで新たな教育プログラムを提案することになり、学生相手の道徳の模擬授業や小学校の校長先生とT・Tで授業を行うなどの実践研究に取り組んだ。3年目は、N中学校で「課題を抱える生徒の自律に向かう意欲の向上を目指して」のテーマで、生徒たちとの交流活動や教職員、生徒サポーター等へのインタビュー調査等を行い、その結果をまとめた。

また3年間の調査研究の副産物として、道徳の授業で取り上げた絵本「いのちをいただく」のかたり人（びと）坂本義喜氏を招いての講演会を、自ら企画し実行委員会を組織して実施したことは、大いに評価できる。

(上地幸市)